【概要版】

雲南市立病院総合診療専門研修プログラム

※詳細は「雲南市立病院総合診療専門研修プログラム（2023 年版）」を参照

【研修に関する問い合わせ先】

雲南市立病院　キャリアサポート・育成センター　電話番号：0854-47-7529

事務局　勝部琢治

はじめに

雲南市立病院は島根県東部の雲南市を含む雲南２次医療圏（東京２３区と同等の土地面積、圏域住民約６万人）の地域中核病院であり、地域に根差したプライマリ・ケアから高度医療、さらには在宅医療や終末期医療まで、幅広い医療を展開しています。

当院では、医師をはじめとする医療人材不足を本質的に解消するため、「地域医療人育成センター」を開設し、研修医の指導、医学生・看護学生の実習、高校生・中学生等の職場体験セミナーなどの事業を実施し、これからの地域医療を担う人材を育成しています。

また、雲南圏域の疾病に幅広く対応できる総合診療を目指し、平成２２年より「地域総合診療科」を開設。総合診療に外科の要素を取り入れた総合診療医の育成という独自の形態にも積極的に取り組み、平成２８年からは「地域ケア科」を創設し総合診療の中心的役割を担っています。

研修目標

当院のプログラムの特徴は、一般的な総合医養成プログラムが内科系医師養成のものであるのに対し、外科系の知識や技術も兼ね備えた総合医・家庭医の育成を目指しています。

当院が目指す医師像

① 地域の特性を十分に理解した上で、診療科を問わず患者のあらゆる健康に関する問題に対応できる医師

② 疾病による身体の変化だけでなく、心のケアや療養環境まで気を配り、患者・家族と一緒になってあらゆる問題に対応できる医師

※ 本プログラムの特徴として、中山間地域の限られた医療資源の中で、ＮＰＯ／行政／住民自治組織等と連携しながら、地域包括ケアシステムのマネジメントやリーダーシップが取れる医師を質高く育成することを目標にしています。そのため、中山間地域での研修だけでなく選択肢として海外での保健医療に従事できる期間も設け、医療資源やマンパワー不足の現場で活躍できるマインドと実践能力を伸ばす機会を整えています。

※後期研修及び後期研修以降のキャリアとして総合診療専門医を目指す医師のサポート体制として、院内の各専門科の医師との相談や連携により必要な知識や技術の向上を支援しています。

研修期間

医師初期臨床研修修了後３年間

●総合診療専門研修Ⅰ（６ヶ月）

医療圏域内の診療所を初めとした研修連携施設での総合診療を中心に経験を積んでもらいます（研修施設は選択）。各種検査、健診、ドック、学校保健医、産業医、往診、ケア会議への出席など幅広く研修の機会があります。地域に根差した医療を体験する中で、医療資源の少ない地域で活動するための実践能力を養います。

●総合診療専門研修Ⅱ（１２ヶ月）

雲南市立病院で地域ケア科、救急、外来診療及び入院診療を行います。特に地域悔過と救急においては鑑別診断を中心とした診断法を身につけ、地域の特性を十分に理解したうえで、医療上のあらゆる問題に対応した適切なトリアージを行う能力を養います。また、救急外来患者の診療を行い、救急疾患の初期対応について経験します。雲南圏域の拠点病院での研修のため、患者の疾病による身体の変化だけでなく、心のケアや療養環境にまで心を配り、医療・保健・福祉等の地域資源を活用し、地域包括ケアを実践する力を養います。

●内科研修（１２ヶ月）

雲南市立病院内科または県内外の研修連携施設で研修を行います（研修施設は選択）。内科外来・入院、救急外来で総合診療を行い実践能力・対応能力を養います。

●小児科研修（３ヶ月）

雲南市立病院小児科または県内外研修連携施設で診療を行います（研修施設は選択）。小児救急をはじめ、外来・病棟研修、小児保健活動等を通して、小児に関わる多彩な健康問題に対応できる知識・技術を習得します。

●救急科研修（３ヶ月）

救急救命センターが設置されている県内外の病院で研修を行います（研修施設は選択）。救急専門医の指導の下、各科専門医と連携しながら１次救急から３次救急までの幅広い救急医療を学び、的確な診断能力・初期対応能力を養います。

●エレクティブ研修（６ヶ月）※内科と総合診療研修Ⅱを兼ね合わせて研修した場合※

研修医のニーズに基づく自由度の高い研修が可能です。研修施設や科は個別に設定します。これまでの研修で不十分だった分野やさらに関心が生じた分野を補完します。選択科としては、雲南市立病院の外科（初期研修で外科を選択してない専攻医は推奨）、整形外科、精神科、皮膚科、耳鼻科、また在宅から入院まで一貫して質の高いリハビリテーションを提供しているリハビリテーション診療科での研修が可能です。また、緩和ケアも院外で研修可能です。専攻医の相談に応じ、意向を踏まえていきます。

以上、計３年間

«選択オプション»　※上記専門研修（3 年間）終了後

●国際保健研修（１２ヶ月）

上記３年間の研修の他、国際保健に従事できる機会（１年間）も設けています。国際保健や地域医療の現場で活躍したい医療従事者の支援を行っている特定非営利活動法人と提携しており、海外の医療資源やマンパワー不足の地域で研修を行うことも可能です。この研修により地域包括ケアシステムのマネジメント能力やリーダーシップを取るための能力を養い、地域医療の現場で活躍できるマインドと実践能力を伸ばします。

研修施設

■雲南市立病院附属掛合診療所（総合診療Ⅰ）
■大曲診療所（総合診療Ⅰ）
■飯南町立飯南病院（総合診療Ⅰ）
■奥出雲病院（総合診療Ⅰ）
■平成記念病院（総合診療Ⅰ）
■島根県立中央病院（内科、小児科、救急科）
■島根大学附属病院（内科、救急科）
■松江赤十字病院（内科）
■沖縄県立中部病院（内科、小児科、救急科）
■沖縄県立宮古病院（内科、小児科、救急科）
■沖縄県立八重山病院（内科、小児科、救急科）
■JCHO 横浜保土ヶ谷中央病院（内科）

■雲南市立病院（総合診療Ⅱ、内科、小児科）※基幹施設

«領域別»
□雲南市立病院（一般外科、整形外科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科）
□松江市立病院（緩和ケア・ペインクリニック科）

指導体制に関する特徴

研修の特徴
1．家族ケア・カンファレンス
開業医、在宅スタッフやソーシャルワーカー等も参加し、患者のケアについて、家族を含めた心理社会的な問題も考慮しながら検討します。このカンファレンスは研修医がマネジメントします。
2．県内家庭医療セミナーの活用
月１回開催されている、家庭医療セミナーにテレビ会議システム等で参加できます。セミナーは、家庭医療学の理論的学習と症例からの実践的学びを結びつけて行います。また、リサーチセミナーも実施しており、プライマリ・ケアのリサーチを推進します。
3．外部アドバイザーの招聘
研修の質を保証するため、家庭医療・医学教育分野の経験豊かな先生方を招聘し、研修内容や方法に関するフィードバックをもらうことが出来ます。また、他の研修施設との研修交流により、研修施設の垣根を越えてフィードバックし合える環境作りをサポートします。

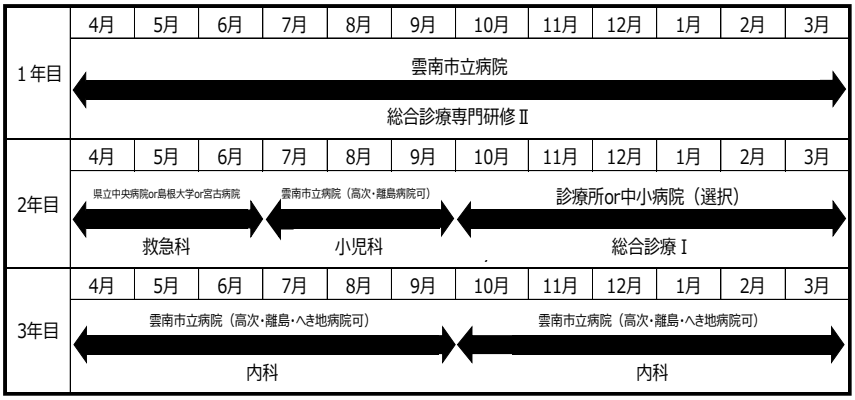
評価方法

1．外来・診療振り返り
診療の振り返りは診療現場でその都度行われています。研修医が経験した症例について、指導医が患者の評価やケアの方法などに対してフィードバックを行います。また、適宜、指導医や研修医同士で外来診療の状況を確認し、患者情報の共有、患者ケアの検討はもちろん、相互的に総合医療・家庭医療の知識・技術を高め合います。また医療面接の技能と態度を養います。
2．経験省察研修事例検討会
本プログラムで専門医を取得するには、経験省察研修により必要な臨床能力を示すことが求められています。毎月開催する事例検討会は、研修医が担当する事例について、指導医らと共にディスカッションし、家庭医療学的な視点から考察し、経験省察研修録作成の支援をします。
3．レジデントデイ
月１回、レジデントデイを開催します。振り返りでは、研修ログ、セルフアセスメント用紙をもとにした自己評価を行い、他者からのフィードバックをもらいます。また、適宜 Significant Event Analysis（重大な事項と捉える診療の振り返り）、クリニカルジャズなどを行い、総合診療医集団としての診療の質向上を図ります。
4．学会参加・発表
２回／年のプライマリ・ケア連合学会への参加と３回／年の学術学会、その他関連学会等で発表し、研究や発表についての支援をします。その他、関連学会に参加・発表や県内外の学会等での発表も支援します。

※総括的評価（評価時期・評価者・評価方法）　研修の節目には、指導医や育成センターを中心に研修目標の到達度に対する総括的評価を行います。看護師やリハビリテーション技師、ケースワーカー、ケアマネージャーなどの他職種も参加し、多面的な評価を行います（360°評価）。

※研修修了認定の方法（総括的評価結果の判断の仕方・修了認定に関わるメンバー）　指導医による５段階評価を行い１点（不可）が全体の５％未満であることを修了の要件とする。ポートォリオ事例報告、360°評価を中心に総括的評価を行い、修了認定はプログラム責任者が行う。

研修スケジュール



総Ⅰ：掛合診療所、大曲診療所、飯南病院、奥出雲病院、平成記念病院

総Ⅱ：雲南市立病院

内科：雲南市立病院、県立中央病院、松江赤十字病院、沖縄県立中部病院、沖縄県立宮古病院、沖縄県立八重山病院、JCHO 横浜保土ヶ谷中央病院

救急：県立中央病院、島根大学附属病院、沖縄県立中部病院、沖縄県立宮古病院、沖縄県立八重山病院、

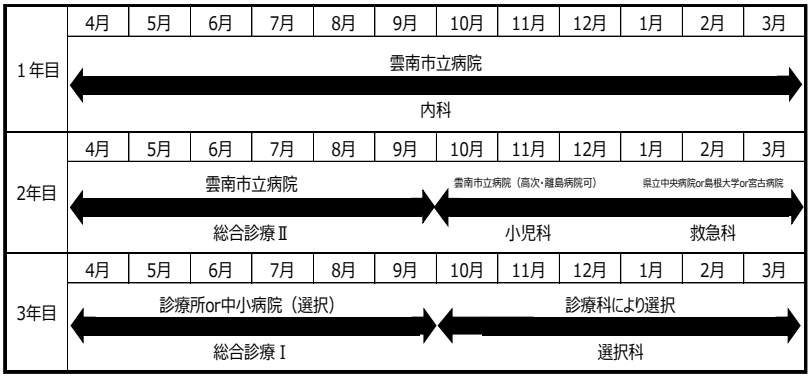
小児：雲南市立病院、県立中央病院、沖縄県立中部病院、沖縄県立宮古病院、沖縄県立八重山病院

地域医療に配慮し、一年以上の僻地等の専門研修が含まれるものとする

専門医機構において諸事情を考慮し、最大６ヶ月間の選択研修を行う場合内科と総Ⅱを兼ね合わせ雲南市立病院で研修を行い、選択科として初期臨床研修時に外科を研修していない場合は、外科研修を推奨

研修施設は、上記研修施設より選択

地域医療に配慮し、一年以上の僻地等の専門研修が含まれるものとする



研修プログラム運営体制

研修プログラム責任者：大谷順（雲南市立病院事業管理者）　特任指導医：大谷順、太田龍一ほか

プログラムの質の向上・維持の方法

プログラムの質向上・維持のための情報については、指導医・地域医療人育成センター・総合医家庭医研修プログラムワーキングチームが集約・検討・協議を行い、プログラムの改善につなげていきます。

研修医との双方向評価を通じて、プログラムを適宜改善していきます。

他の後期研修プログラムを実行している医療機関と定期的に意見交換を行い、プログラムの改善を行います。

総合診療分野の経験豊富な先生方からプログラムを評価してもらい改善を行います。

本プログラムに関わる指導医、また初期臨床研修指導にかかわる指導医も含めてプライマリ・ケア連合学会主催の研修会への積極的な参加を促し、指導医のレベルアップをはかります。

サポート体制

プログラムの質向上・維持のための情報については、指導医・人育成センター・研修プログラムワーキングチームが集約・検討・協議を行い、プログラムの改善に努めます。

女性専攻医が働きやすい環境を整備するため、院内保育所・女性医師専用当直室を完備し、WLB 委員会を設置し検討を行っていきます。